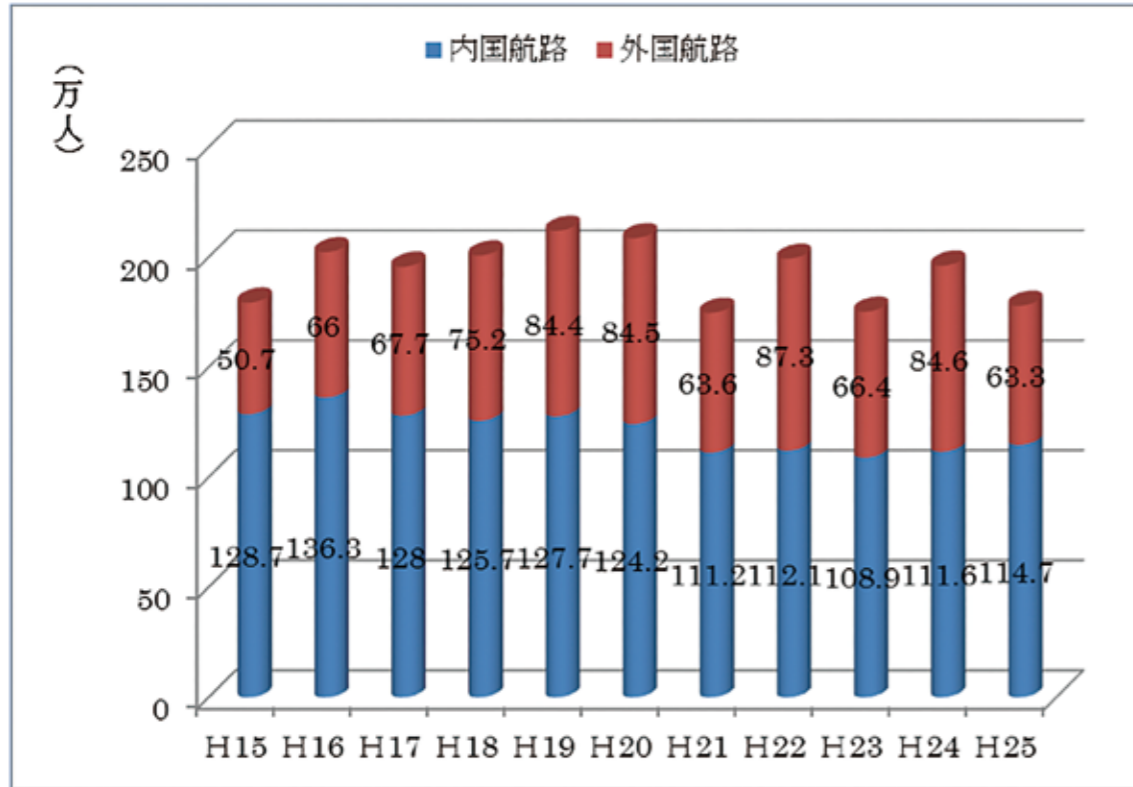


【地下鉄乗車人員推移】

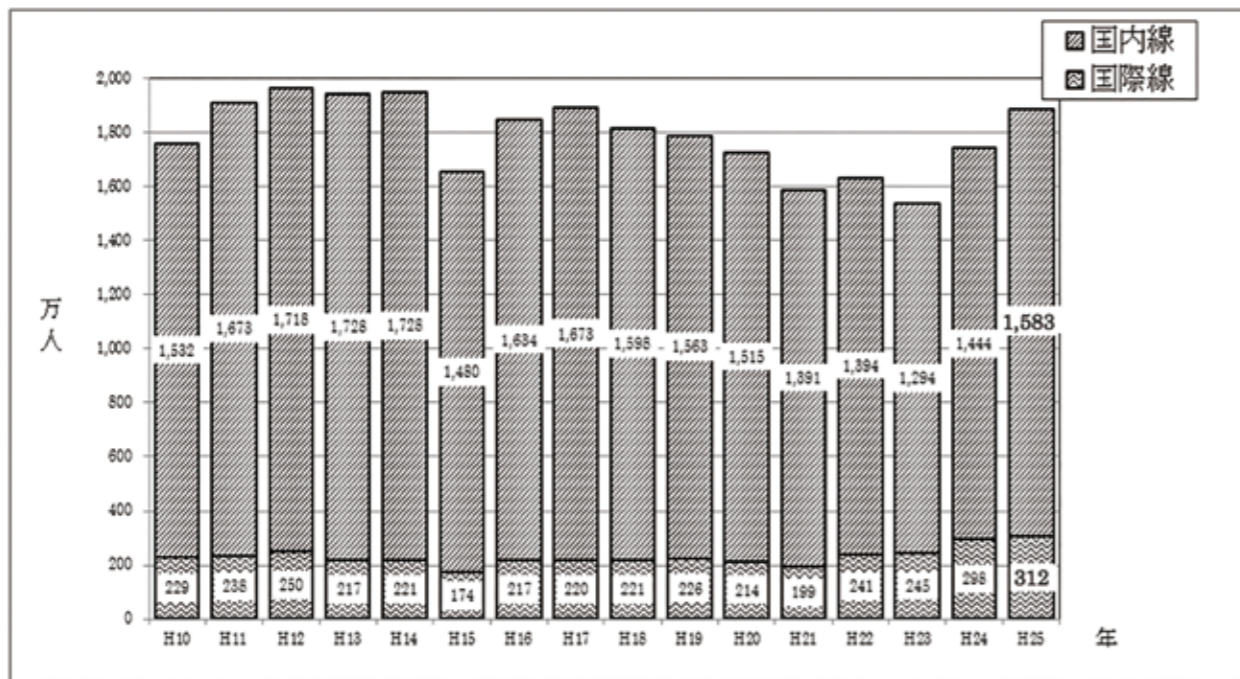
(単位:千人)

年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
市営地下鉄	104,932	114,211	120,811	123,906	125,826	123,865	127,136	133,434	137,246	143,153

【船舶乗降人員の推移】



【福岡空港の乗降客数の推移】



5. 計画策定までの流れ(会議開催等)

1. 計画策定に関する審議経過

年月日	審議会等	内容
平成25年6月4日	環境審議会総会	福岡市環境基本計画(第三次)の策定について諮問
平成25年8月26日	福岡市環境基本計画(第三次)素案策定作業部会	現行計画の検証及び現行計画策定後の状況の変化について
平成25年9月30日	環境審議会総会	現行計画の検証及び現行計画策定後の状況の変化について
平成25年10月26日	ふくおか環境市民カフェ	対話テーマ1: 10年後の福岡市の環境をイメージすると、そこでは何がおきているのでしょうか? 対話テーマ2: より良い環境のために、この福岡で何ができるのでしょうか?
平成25年11月19日	福岡市環境基本計画(第三次)素案策定作業部会	計画の骨子について
平成25年12月26日	福岡市環境基本計画(第三次)素案策定作業部会	計画の骨子について
平成26年1月30日	環境審議会総会	計画の骨子について
平成26年3月24日	福岡市環境基本計画(第三次)素案策定作業部会	計画の素案について
平成26年5月9日	福岡市環境基本計画(第三次)素案策定作業部会	計画の素案について
平成26年5月28日	環境審議会総会	福岡市環境基本計画(第三次)の素案について審議。 → 環境審議会から福岡市長に答申。 (平成26年5月29日)

2. ふくおか環境市民カフェでの市民意見

素案作成前の段階における市民意見の反映を行うとともに、計画策定後の市民・事業者等の自主的な行動を促進するため、「福岡市環境行動賞」受賞者・団体等、市内で積極的に環境活動を行っている市民に参加を呼びかけ、以下のとおりワールドカフェを開催した。

- 日 時：平成25年10月26日(土) 14:00～17:00
- 場 所：TKP 天神シティセンター 8階 M-1 会議室 (福岡市中央区天神2-14-8)
- 案 内 数：639名(個人及び団体の代表者)
- 参加者数：37名
- 実施結果

ファシリテーターの進行のもと、テーマごとのグループに分かれ、ワールドカフェ方式による活発な意見交換が行われた。さまざまなご意見の中から、各グループにおける主なご意見を要約して以下に示す。

グループ	主なご意見(今後重点的に取り組むべきテーマなど)の要約
省エネルギー	・家庭、事業者、行政まるごと省エネ・創エネ
地球温暖化	・産学官、地域の連携強化 ・地球への影響
生物多様性	・生物多様性について考え、行動する ・地域住民、ボランティア、研究者などから学ぶ
河川環境	・環境や安全に配慮した河川管理 ・環境教育の強化
ごみ問題	・さまざまな年代、地域による行動 ・行政の役割 ・市民にとって身近でわかりやすい計画に ・ごみの減量 ・生ごみ対策 ・資源ごみの回収 ・意識・マナーの向上
経済活動と環境	・経済発展と環境保全 ・個人、企業・団体の環境意識の改善
高齢化と教育	・子どもの環境意識向上と高齢者の活用 ・学校、学生の表彰 ・市職員、教員による率先行動



「ふくおか環境市民カフェ」の様子

3. パブリック・コメントの概要

「福岡市環境基本計画(第三次)」の策定にあたり、広く市民の意見を反映させるため、原案の内容を公表し、市民意見の募集を行った。

- 期 間：平成26年7月15日(火)～平成26年8月15日(金)
- 閲覧・配布場所：環境局政策経営課、情報公開室、情報プラザ、各区役所情報コーナー・出張所、まもる一む福岡(福岡市保健環境学習室)
- 意見提出の方法：窓口提出、郵送、ファックス、電子メール
- 周 知 方 法：市政だより、福岡市ホームページ、キックオフイベント「ふくおか環境未来カフェ」の実施

○意見提出状況と概要

- 1) 意見提出者数 52人
- 2) 意見の件数 126件

内 訳

- ① 快適で良好な生活環境のまち(づくり)に関する意見 22件
- ② 市民がふれあう自然共生のまち(づくり)に関する意見 43件
- ③ 資源を活かす循環のまち(づくり)に関する意見 10件
- ④ 未来につなぐ低炭素のまち(づくり)に関する意見 14件
- ⑤ 分野横断型施策に関する意見 23件
- ⑥ 計画全体・その他の意見 14件

○意見への対応

- ① 意見を踏まえ修正 12件
- ② 原案どおり 114件

内 訳

- ・対応しないもの(原案どおり) 54件
- ・同様の趣旨について記載済みのもの 21件
- ・個別の施策の中で検討するもの 39件

○主な意見

快適で良好な生活環境のまち(づくり)に関する意見

- ・黄砂やPM2.5などの大気汚染物質の影響の軽減について、実際に取り組んでいることや調査の結果を発表することが必要ではないか。
- ・自転車の放置やごみ・空き缶のポイ捨ての防止対策、マナーアップの向上に努めてほしい。

市民がふれあう自然共生のまち(づくり)に関する意見

- ・福岡市は全国に先駆けて、他のどの都市より自然に対する意識が高い都市であることを宣言し実行してほしい。
- ・自然は人の手を適度に加えないと守れないので、人々に環境について関心を持ってもらう必要がある。
- ・博多湾の保全について、早急に下水処理場の高度処理推進を。
- ・干潟の生態系を守るため山・川・海をつなぐ集水域、塩生植物、後背地(林)の保全をすべき。
- ・東アジアの視点で渡りをする鳥類(ハチクマ・クロツラヘラサギ・シギやチドリ類)の保護を考えるよう努めてほしい。

資源を活かす循環のまち(づくり)に関する意見

- ・ごみの減量とリサイクルをもっと積極的に進めてほしい。市の関連するイベントから、まず使い捨ての食器などを使わないようにできないかと思う。
- ・古紙リサイクルなどにポイント制を導入するなど、楽しんでリサイクルできる環境をつくれればリサイクルする人が増えるのではないかと思う。
- ・紙おむつリサイクルについては事業所から排出されるものを対象としているが、高齢化社会が進み、在宅介護者が増えていく中で、家庭から出る紙おむつについても分別回収の必要が出てくるのではないか。

未来につなぐ低炭素のまち(づくり)に関する意見

- ・家庭部門での省エネ対策は、「見える化」や「省エネ機器の導入」だけでなく、家庭の状況に応じた実施可能なソフト的な省エネ対策もある。
- ・電力供給機能を持つ次世代自動車とあるが、もう少し具体的に示してほしい。
- ・自転車道路の整備、駐輪場の整備や情報の通知を通じて、自転車で通勤・通学しやすいまちにしてほしい。

分野横断型施策に関する意見

- ・環境に関心の低い人々を巻き込んでいくためには、「堅苦しい」ことを伝えるだけでなく、「楽しみ」、「夢」につながることを伝えていくことが重要。
- ・学校における環境教育等、知識としては十分に子供たちに浸透していると思うが、体験が伴えばさらに身につくと思う。
- ・環境学習を単発的にするのではなく、小学校、中学校、高校と継続していく必要がある。
- ・子どもに対する環境教育・学習は大切であるが、大人(親)に対する環境教育・学習も大切。
- ・補助金、助成金を受けた団体のその後の活動継続の実態把握と、指導が必要。
- ・地域環境力向上の拠点として、様々な住民が集い交流する拠点であり、環境活動ネットワークの核の役割がかなり期待される公民館の有効活用策も必要。

計画全体・その他の意見

- ・現行の第二次計画はどうだったのか評価を少し加筆してほしい。
- ・関連している取組みを連携させることにより、分野横断的な行動の推進を図ることができる。
- ・市民が様々な取組みに参画してもらうためには、わかりやすく伝え、広報することが必要。

『ふくおか環境未来カフェ』について

市民意見募集のキックオフイベントとして、「ふくおか環境未来カフェ」を開催した。

- 開催日時：2014年7月17日(木) 19:00～21:00
- 会場：福岡市役所15階講堂
- 参加者：58名

※大学生から高齢の方まで、また、日頃、環境活動をしていない人から環境活動のリーダーまで様々な方が参加。さらに、本市職員も同じテーブルに交ざり、対話した。

【テーマ】「10年後の〇〇〇〇のために、私たちは何をしたらよいのでしょうか。」

- ・4～5人×12グループに分かれて、〇〇〇〇の中に、「ごみ減量」や「自然共生のまち」などそれぞれが関心を持つ言葉を入れ、途中でメンバーを変えながら対話。
- ・リラックスした雰囲気の中、環境基本計画(原案)を確認しながら、普段感じている思いなどを自由に語り合った。



プログラム

- 19:00～ 「福岡市環境基本計画(第三次)原案」についての説明
- 19:15～ ワールド・カフェ方式による意見交換
- 20:45～ 各自意見提出(パブリックコメント手続による)
- 21:00 終了



○成果

(1) 納得と共感

「環境」をテーマに様々な立場の方同士で対話をしていただき、自分の意見を披露し、参加者の意見に耳を傾けることで、お互いに納得と共感を得ることができた。

(2) パブリックコメント意見の提出

楽しい対話で終わるのではなく、そこで得られた多様な知見も踏まえて、環境基本計画(原案)について約70件の意見を得ることができた。

